

# 腸管免疫の恒常性維持に於ける C型レクチンおよびIL-17Fの役割

岩倉 洋一郎 先生

東京理科大学生命医科学研究所  
ヒト疾患モデル研究センター

日時：平成 29 年 11 月 16 日（木） 15:00 - 16:30  
場所：日本生物科学研究所 管理棟 会議室 2・3

## 【要旨】

Dectin-1はC型レクチンレセプターの一つで、真菌の細胞壁の構成成分であるβグルカンを認識し、真菌の感染防御に重要な役割を果たしている。βグルカンは酵母やキノコ、海藻など多くの食品にも含まれており、Dectin-1発現細胞が腸管に見られることから、βグルカンの腸管免疫に及ぼす影響について検討した。その結果、Dectin-1欠損マウスは潰瘍性大腸炎のモデルである、デキストラン硫酸ナトリウム(DSS)誘導大腸炎に対して耐性を示すことが解った。この時、腸管でDectin-1からのシグナルが入らなくなるとIL-17Fの発現が低下し、このため抗菌蛋白質が誘導されなくなり、その結果特定の乳酸菌が増殖し、この菌によって制御性T細胞(Treg)の分化が促進されるために炎症が抑制されていた。Dectin-1シグナルを阻害する活性を持つ海藻由来のラミナリンを経口投与することによっても同様にTregの増加とDSS大腸炎耐性が認められた。これらの結果は、C型レクチンやIL-17Fが感染防御だけではなく、腸管の免疫系の恒常性維持に重要な役割を果たしていることを示すと共に、Dectin-1やIL-17Fを標的とした大腸炎の予防、治療の可能性を示している。



主催

一般財団法人 日本生物科学研究所

N I B S <http://nibs.lin.gr.jp/>